

著者紹介



飯泉 紀子 (い い ず み のりこ)

丞コンサルティング株式会社 代表取締役
経営コンサルタント。文理学部数理学科卒業。株式会社日立ハイテクノロ
ジーズ入社。ゼネラルマネージャーに従事。一般社団法人技術同友会が主
催する「第8回女性技術者育成功労賞」受賞。同社退職後、2023年に丞
コンサルティング株式会社を設立。
監修に「ソフトウェア品質知識体系ガイド(第3版) SQuBOK Guide
V3」(オーム社共著)



位野木 万里 (い の き まり)

工学院大学 情報学部コンピュータ科学科 教授
ソフトウェア生産技術、要求獲得技術の標準化、現場への適用展開、技術
者育成に従事。要求仕様書等の検証や理解の加速化、暗黙知の形式知化と
再利用技術に関心を持つ。人間が試行錯誤を経て獲得した発見的知識と発
見を加速するメタな知識のモデリング手法を探求中。日本学術会議連携会
員、日本工学会フェロー。



上原 誠 (う え は ら まこと) 株式会社アイ・ピー・エル 取締役
SEの知見を活かし、2011年に国内初の企業向け会員制動画配信サービス
「クラストリーム」のクラウド事業を立ち上げる。特許技術を元に、官公
庁(経済産業省他)、教育機関(放送大学学園他)を始めとする複数の大手
企業・団体への導入支援を実施。神奈川県を中心に13大学でSE講座の
講師を務める。iCD協会理事。
編著:「SEハンドブック(第10版)」(神奈川県情報サービス産業協会)



遠藤 修 (え ん ど う おさむ) 一般社団法人iCD協会 専務理事
三菱UFJモルガンスタンレー証券システム部にてシステム投資計画、内部
統制、人材育成等に従事。その後、独立行政法人情報処理推進機構
(IPA)にてIT人材向けスキル標準の開発を担当。iCDを世に送り出した
のち、iCD協会を立ち上げ現職。企業における活用のためのワークショッ
プをはじめ、企業導入支援実績多数。



大槻 繁 (お お つ き しげる) 株式会社一(いち) 代表取締役
ソフトウェア開発方法論の研究開発、ソフトウェアエンジニアリング、プ
ロジェクト・マネジメントの教育を手がける。近年は、新しいパラダイム
提唱、知識創造産業におけるアーキテクチャや仕組みを探究している。
アジャイルプロセス協議会フェロー、同知働化研究会運営リーダなど。
著書に「ソフトウェア設計」(朝倉書店、共著)、「ソフトウェア開発はなぜ
難しいのか」(技術評論社)、「ずっと受けたかったソフトウェア設計の授
業」(翔泳社、共著)など多数。



鎌倉 千恵美 (かまくら ちえみ) アガサ株式会社 代表取締役
名古屋工業大大学院卒。総務省総合通信基盤局を経て、2001年に日立製作所に入社し、製薬・医療機関向けの新ビジネス・ソリューション開発を担当。2011年に製薬企業向け文書管理システムを展開する米 NextDocs の日本支社代表に就任。2015年10月にアガサを設立した。MBA。



北野 弘治 (きたの こうじ) 株式会社アットウェア 取締役 / 一般社団法人翔明会 理事

福井県出身。子供の頃の夢はパイロット。学生時代にパソコンに熱中し、その影響でITエンジニアの道へ。29歳の時に一度フリーカメラマンに転身するも、程なくしてIT企業を起業。現在は株式会社アットウェアの取締役として会社の組織デザイン等に従事。社員が人生の夢や目標を共有するという事が出来る職場にするための一つとしてドリマネを組織に導入。現在の主な夢は、コーヒーブランドの立ち上げ、ゴルフのシングルプレイヤー、みんなが寄り集まる組織にする事など。



塩田 英二 (しおた えいじ) IPA 専門委員

1981年4月 株式会社東洋情報システム (現 TIS 株式会社) 入社
ソフトウェア技術者として従事

1984年9月～1993年12月 株式会社日本シンボリックス 出向

2016年4月～2018年9月 生産革新本部より IPA に出向

2018年9月末 TIS 株式会社を定年退職、2018年10月～2022年3月 IPA 非常勤 嘱託、2022年4月～IPA 専門委員

情報処理安全確保支援士 (2018年4月)、TOC/CCPM スペシャリスト、TOCfE、知働化研究会 メンバ



高橋 雅宏 (たかはし まさひろ)

1990年大手IT企業にて購買部門に異動後、2003年12月アジャイルプロセス協議会に入会。入会当初から「見積・契約ガイドラインWG(当時)」にて活動開始。当初より、「ソフトウェア開発者の未来が明るく輝くような契約とは？」について探求。2011年には、独立行政法人 情報処理推進機構(IPA)の「非ウォーターフォール型開発WG」にアジャイルプロセス協議会として参加し、非ウォーターフォール型開発に向けた契約書の作成に貢献。その後、大手IT企業を定年退職。現在は、学校法人の設備保全業務に従事し、当協議会で培ったノウハウをソフトウェアではなく、ハードウェアの不具合の修復・改良に応用中、現在に至る。



野口 隆史 (のぐち たかふみ)



萩原 正義（はぎわら まさよし） Exscale Inc., Founder, CTO
 大手総合電機メーカー、コンピュータ企業を経て、マイクロソフト株式会社
 ソフトウェアアーキテクトとして長年勤める。ソフトウェアアーキテク
 チャ研究開発と技術啓蒙に従事。クラウドコンピューティング、サービス指
 向アーキテクチャ、分散システムなど開発方法論を担当。アバナード株式
 会社をへて、Exscale Inc.を創設。
 東京大、東工大、早稲田大学、北海道大学などで非常勤講師、助教を務め
 る。



羽生田 栄一（はにゅうだ えいいち）
 IPA 主任研究員・株式会社豆蔵デジタル HD グループ CTO



濱 勝巳（はま かつみ） 株式会社アズーリ 代表取締役
 アジャイルプロセスの導入を推進し、物流や保険、証券を始めとする様々
 なドメインのエンタープライズシステムのアーキテクチャ設計及びプロジ
 ェクト・マネジメントを担ってきた
 アジャイルプロセス協議会 前会長、同知働化研究会、実践的ソフトウェア
 教育コンソーシアム メンバなど。
 著書に「ソフトウェアの現場力ハンドブック」（オーム社共著）、「Web 技
 術がわかる本」（翔泳社）など



松田 裕幸（まつだ ゆうこう） 合同会社シンボリックシステムズ 代表
 第2次 AI ブームの時代、人間の知識を機械に教え込む研究に従事。その
 後、大学において超高速「記号」計算を Wolfram Research Inc. および
 Microsoft と共同研究する。独立後、しばらく Mathematica を利用した
 数理コンサルタントを経験したあと、現在は自然言語処理を主業務とす
 る。なお当業務において LLM の役割は補助的であり、主アルゴリズムは
 機械学習からなる。邦訳書『Mathematica クックブック』（オライリー・
 ジャパン）



水越 明哉（みずこし あきや） アジャイルプロセス協議会 会長



本橋 正成（もとはし まさなり）

